

職員の皆さんへ

観測史上、最短の梅雨明けとなり、すでに真夏の暑さが感じられる毎日です。新型コロナウイルス感染状況も、やや落ち着きがみられる状況にありますが、一方で私たちが忘れてはならない「平戸市職員自戒の日」の7月1日になりましたので、一言申し上げます。

これは過去に平戸市職員の数名が不祥事を起こしたことによって、行政全体が市民の信頼を失いかけたことを深く反省し、職員全員で負っている業務に向きあいながら、新年度が始まってからの三ヶ月の自分自身を改めて戒めるという決意の日です。

この不祥事などの事実を知らない職員は、ぜひとも上司にこのことを尋ね、また尋ねられた先輩職員は過去を思い出しながら、後輩諸君に適切なアドバイスをしていただきたいと思います。

振り返りますと、「自戒の日」として毎年職員の皆さんに、私の思いを伝えるのは、今回で10回目となります。もういい加減、今回で終わりにしてもいいのではと自問自答していますが、副市長からの報告に目を通しますと、幾つかの非違行為や行政上のミスも散見されることがあるようです。

また全国的にも行政上のデータ管理において、重大な過失が事件となって報道されるケースもあることも事実です。

6月22日のニュースでは、佐賀県が委託した業務において佐賀新聞社がメール誤送信によって個人情報が出た事件がありました。

また皆さんの記憶にも新しいと思いますが、兵庫県尼崎市が委託した企業の社員が泥酔して市民46万人分のデータが入力されたUSBを紛失した事件（後日、戻ってきたようですが）などがありました。

そして山口県阿武町の誤送金事件は、新型コロナウイルス対策として臨時特別給付金4,630万円が結果的には町役場に返金されたものの、大きな事件として全国に報道されたことは記憶に深く刻まれていることでしょう。

これらの事案・事件は、いずれも行政と委託先との連携におけるミスが原因となっているようです。市民にとって大事な個人情報や貴重な税金を、委託先の不注意や確認不足によって棄損されてはなりません。また行政組織として緊張感をもって管理していても、担当者のちょっとした油断によって大きな信用失墜に陥ってしまいかねません。

これからの行政業務は、さらにデジタル化が進み、DX推進のルールが敷かれつつあります。そのような時代の到来であるからこそ、ヒューマンエラーを如何にして回避できるチェックシステムを構築するかが大事だと思います。

そして何よりも「慣れと油断」は禁物です。

毎年同じような資料づくりをさせられるからと言って、簡単な気持ちで「コピー&ペースト」をしていませんか？ そうした心の隙間に大きなミスへの入り口が待ち受けているのだと思います。

人間は誰でもミスをします。それを補い合って、未然に防ぐのが組織であり、重層な体制であるべきです。

一方で、人間は他人のミスを指摘し、場合によっては口撃することで優越感を覚えることがあります。特に、公務員に対する世間の視線は殊のほか厳しく、前述した山口県阿武町の例を挙げるまでもなく、行政のミスがワイドショーなどで報道されれば、全国から批判の抗議が寄せられることとなります。そんな事態に陥って、日頃の業務に支障が起きたり、無意味な時間や労力を費やすことは避けたいと思います。

今年の夏は、梅雨明けが早かった分、暑い日が続くような予感がします。

どうか夏バテなどにならないよう、日頃の健康管理に気を配りながら、重ねて新型コロナウイルスの感染防止にも心がけながら、英気を養ってください。それは、これまで述べてきたミスを未然に防ぐために、個々人が心身ともに健全であること、そしてチームワークの醸成も必要であるということです。

全国が称賛する平戸の美味しいものを食べながら、楽しいお酒を酌み交わす機会を通して、職場の相互信頼と強固な結束を促し、山積する行政業務に果敢に向き合い、ともに市民の幸福実現に向けて頑張ってまいりましょう。

そして今年の「自戒の日」における私のメッセージが、10回目の節目として今回で最終章となることを願いつつ、皆様のご奮闘に大いに期待したいと思います。

令和4年7月1日

平戸市長 黒田成彦